

関東明教 第13号 目次

母校沿革……………4  
 同窓会関東支部沿革……………5  
 校歌……………6

巻頭言

同窓会の絆広く太く……………8  
 黒田映李さんを紹介します……………9  
 菩提の旅……………10  
 村上 慎吾(同窓会長) S 36

総会・懇親会報告

総会・懇親会報告……………11  
 収支報告……………13  
 西原申介 S 50

講演会「坂の上の雲のまち 子規とふるさと松山 子規と真こと漱石」  
 松山市立子規記念博物館館長 竹田 美喜 S 39……………14

カラーフォトアルバム……………21  
 平成23年度 総会・懇親会出席者……………29  
 寄付者一覧……………30

会費納入者一覧……………31  
 役員名簿／物故者……………35  
 会則……………36

事務局だより……………37  
 平成24年度総会・懇親会のご案内……………38

関東明教特集

1. ドラマ「坂の上の雲」エグゼクティブプロデューサー西村与志木氏に聞く……………39  
 (若者よ恥ずかしがらず人の役に立て)  
 2. 関東に眠る母校の偉大なる先輩の墓を訪ねて 池田 裕計 S 28……………47  
 3. 母校ゆかりの俳人たちとその句碑を巡る……………50

特別寄稿

第2代関東支部長 塩崎潤先輩 追悼……………56  
 第3代関東支部長 和食 克雄 S 31……………56

特別寄稿

昭和20年～21年に松山中学校へ入学した生徒達が  
 遭遇し翻弄された学制改革……………57

同期会報告

S 20／松中54期会報告……………岡野 定郎……………61  
 S 24／松山中学校57会傘寿の集い……………上野 泰敏……………62  
 S 28／東京二八会……………辻田 功……………63  
 S 30／東京子丑会……………堀端由美子……………64  
 S 31／水戸偕楽園の梅まつり、日帰りバスツアー……………池田 陽……………65  
 S 32／谷根千散策と子規庵を訪ねて……………道休 俊和……………66  
 S 33／参贊会報告……………渡部 数馬……………67  
 S 34／東京三四会……………東 義男……………68  
 S 35／三五の会関東地区報告……………高須賀 更……………69  
 S 39／第29回関東39会……………清水 賢治……………70  
 S 41／第7回関東41会……………河村 浩……………71  
 S 43／第43期同期会……………本間 純子……………72  
 S 44／獅子の会……………杉岡 恒男……………73  
 S 45／東高を卒業して43年……………篠崎真理子……………74  
 S 46／東高46年卒業同期会……………田淵 廣美……………75  
 S 50／S 50年卒・同期会No.6……………松井 匡子……………76  
 S 52／昭和52年卒同期会報告……………緒方 郁夫……………77  
 S 53／同窓会・絆(東東53会)……………安齋 倫明……………78  
 S 54／関東百年会……………相原 由美……………79  
 S 57／第二回関東同期会……………金子 信……………80  
 S 59／同期の皆さんへ……………♡♡♡ラブ注人♡♡♡ 植木 貴三……………81  
 H 12／第3回平成12年卒同期会報告……………坂本 健……………82  
 その他同窓生報告……………83  
 東高サロン(第1回)報告……………日野由美 H 20……………85  
 東高サロン(第2回)報告……………越智由紀子 H 23……………85

第1回「小ホール講演会」報告

86

部活めぐり

ボート部

古茂田知之 S 36 87

OB会

ラグビー部 / 2011年ラグビー部関東OB会報告

高須賀 剛 H 1 90

海外勤務便り

不思議の国から頑張つていきましょい！ ～インド着任記～

林 和成 S 53 92

二〇一二年シンガポールにて

小椋 千典 S 58 94

海外イクメン生活 ～ミラノ編～

金子 新 H 1 96

投稿

野球部時代のエピソード

私の老後の趣味

人生別離二足ツ

3年1組

夢のドイツワインバーオープン！

親日国・トルコ

バルセロナ駐在記～これから欧州(スペイン)を目指す若い皆様へ～

正岡子規と秋山真之の直観像素質

イスタンブールの思い出

肩書きのない名刺

がんばらないでいきましょい

松下政経塾と私

70歳からの野菜農園通い

OB・OG情報

藝大メサイアでソプラノソロの大役を果たす / 藤井 冴氏 (H 19) 123

長編自主映画を製作 / 渡部亮平氏 (H 18) 124

東京・松山で活躍するジャズピアニスト / 栗田敬子氏 (S 52) 125

早大野球部で活躍 / 梶原慎平氏 (H 20) 125

懐かしき中学校を訪ねて

三津浜 安永 憲史 H 3 126

伊予 坂本 健 H 12 128

ニューズ&トピックス 窪田 孝志(総務課) H 6 136

ブックス 134

母校便り 130

支部便り 136

近畿 仲矢 順子 S 63 138

静岡 船引 恭平 S 32 140

東海 矢野 達也 S 54 141

名刺広告 142

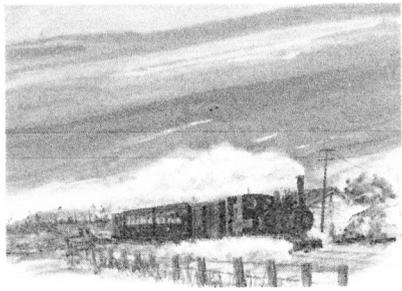
企業広告 157

編集後記 173

■題字 柴田祐昭 S 31

なお、本文中の時刻の表示、筆者ならびに登場人物の赴任地や肩書や役職などの人事情報などは、すべて事象が起きたときあるいは執筆時のものになっております。筆者のそのときの気持ちや尊重してのものですから、発刊時とは違っていることがあります。したがって編集部として「〇〇年」を「〇〇年」に手直ししたり、「元」や「当時」などの表記も付記したりはいたしません。ご了承ください。

表紙 小椋勇記夫 (S32)



坊ちゃん列車  
明治三十九年ドイツのクラウス社製の汽車が松山市駅～三津駅間を走り始めた。これが元祖「坊ちゃん列車」である。  
漱石の小説からそう呼ばれているが、当時は特に名前がなかったように思う。その後路線も伸び市民の生活に欠かせないものになった。「日本で二番目に古い汽車じゃけんの一」という話を聞いて、密かに誇りに思った。石手川の土手を越える時満員の乗客の重みで登りきれない。百メートルばかりバックして再挑戦するが無理。「男の人は降りて押し下さい」と車掌が大声で呼びかける。みんな降りて機関車に力を貸すが少しもしんどいとは思わなかった。押し終えた老若男達は再び汽車に乗る、妙な一体感が生まれた。やがてジーゼルになり戦後を支えた役割を終えた。密かに大切にしたい心の宝物である。

(小椋勇記夫 記)